

7. 本時の指導

(1) 1 / 10 時間目

2年3組 平祐次郎

①本時のねらい

これからの学習について、「ジオジオのかんむり」（保護者の読み聞かせグループ）の方からの読み聞かせを想起させたり教師の読み聞かせをしたりすることを通して、昔話の言葉の面白さや独特な口調と言い回しの面白さを実感させることにより単元の目的を理解するとともに、学習の見通しを立てながら、主体的に学習に臨もうとする意欲を高めることができる。

(2) 展開

学習活動	時	○指導 ・指導上の留意点	◇評価 ※備考
1. 「ジオジオのかんむり」の方たちの読み聞かせについて触れ、昔話に対する興味を持つ。	5	<p>○「ジオジオのかんむり」の方たちが昔話の読み聞かせに来てくれていることについて触れて、昔話について興味を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせをしてもらっている写真を黒板に位置づけ、想起させながら読み聞かせの感想や子どもたちの好きな昔話について自由に交流できるようにする。 	
2. 教師が大好きな昔話を読み聞かせし、感想を出し合い、自分もやってみたいという意欲を持つ。	20	<p>○教師の大好きな昔話の読み聞かせをもとに、子どもたちの「やってみたい」「できそうだ」という意欲を引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジオジオの皆さんに刺激を受けて、教師も読み聞かせに取り組んだことや読み聞かせのコツを覚えてもらったこと、そして、子どもたちに教師の音読の感想を聞かせてほしいことに触れ、読み聞かせをする。その際、練習前の工夫をしていない読み方と練習後の工夫をした読み方を聴き比べさせることにより、児童が音読の面白さとともに工夫について気づきやすいようにする。 ・読む工夫が視覚的に把握しやすいように、一人ひとりに場面の絵や文のコピーを配り、黒板にも貼っておく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><読み聞かせを聞いた感想></p> <p>(聴く視点)</p> <p>「聞いていて楽しい」「面白い」「自分も読みたいくなる」</p> <p>(読む視点)</p> <p>「遠いところから話している人のセリフがゆっくり」→速さ</p> <p>「おけやさんとかみなりさんの声がちがう」→声色</p> <p>「今は言わないような、面白い言葉があった」→言葉</p> <p>「強く読むところと弱く読むところがあった」→強弱</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが気づいた工夫を黒板に位置づけることで、言葉の特徴や言い回しにも着目できるようにする。 ・「読む」視点が出されたところで、音読の楽しさを実感させるために、「読んでみて」と投げかけ、読ませる。 ・何人かの子どもたちに読ませる中で、子どもたちが自然に音読をしたり、「読んでみたい」「できそうだ」という 	<p>※教師モデル 「天にのぼったおけやさん」</p>

<p>3. 単元目標と本時のめあてを確認し、おおまかな学習計画を立てる。</p>	<p>10</p>	<p>様子が見られたりしたところで、本単元における目標「聴いて楽しい！読んで楽しい！！自分の大好きな昔話をお家の人に披露しよう！！」を設定する。この時、相手については子どもからは様々に出ると予想されるが、意見が割れるようであれば2月の学習発表会でうちの人に披露してはどうかと投げかける。</p> <p>○お家の方に披露するためには、「どのような活動が必要か」と投げかけ、板書に位置づける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">④ 学習計画を立てよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書教材「かさこじぞう」で学習できることを知らせ、教科書教材と自分の選んだ本の2つの昔話で学習を進めていくことを確認する。 ・活動の見通しを持たせながら、順番を考える。 	
<p>4. 本時のめあてと活動を振り返る。</p>	<p>10</p>	<p>○今日の学習の振り返りをノートに書かせ、交流し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、友だちの音読や自分の音読についてもふれながら、これからの学習についての思いを書かせたい。 	<p>◇【関】 大好きな昔話を音読で披露したいという思いを持ち、これからの学習に臨もうとしている。 (発言・振り返り)</p>

①本時のねらい

音読を楽しく聞いてもらうために、教師の音読の工夫を手がかりにしながら繰り返し読んだり、試したりすることを通して、昔話の特徴的な語り口調や語のまとまりに着目して、工夫して音読をすることができる。

②本時の展開

学習活動	時	○指導 ・指導上の留意点	◇評価 ※備考
前時までに、子どもたちは工夫して読みたい独特な口調や言い回しのある言葉に印をつけている。			
1. 学習計画を振り返り、本時の活動の見通しを持つ。	5	<p>○学習計画と前時までの活動を振り返り、本時のめあてと学習の流れを確認させる。</p> <p>・「教師の音読例」から、音読の工夫を振り返る。その際に、文の中のどの言葉に特に工夫が見られるかを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><教師の音読の工夫></p> <p>「やめれ」を伸ばして読む</p> <p>「えい、や」を間をあけて読む</p> <p>「えい、や」を強く読む</p> <p>「あうん」をゆっくり読む</p> <p>セリフを声をかえて読む</p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>④め 6年生に楽しく聴いてもらえるように工夫して音読しよう。</p> </div>	
2. 天にのぼったおけやさんの好きな場面の音読の工夫を考える。	15	<p>○楽しく聴いてもらえるような工夫を考え、声に出して試しながら書き込ませる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><予想される児童の考え></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ドドーン」を強く読む ・「ドドーン」をゆっくり読む ・「えい、やっ」で間を長く取る </div> <p>・実際に声に出しながら工夫を考えている子どもをとりあげ、いろいろな読み方を声に出して試せるようにする。</p> <p>・語のまとまりや昔話の特徴的な語り口調に着目して工夫を考えている子どもに発表させたり、場面の文章掲示の中の工夫した言葉に印をつけたりしながら、語のまとまりや特徴的な語り口調に着目できるようにする。</p> <p>・語のまとまりや特徴的な語り口調に目が向いていない子どもには、実際に音読をさせる中で「特にどこをゆっくりにしたの？」など問いかけ、言葉に注目させていく。</p>	<p>◇【C-ア】語のまとまりや昔話の特徴的な語り口調に着目し、工夫して音読している。 (音読の様子・書き込み・振り返り)</p>

<p>3. ペアになり、自分の工夫した読み方で、音読をする。</p>	<p>5</p>	<p>○自分の考えた読み方の工夫を用いながら、ペアになって音読の工夫を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方的にペア活動をさせるのではなく、友だちに聞いてもらいたい、読んでみたいという思いを出させる中で、必然性をもって取り組めるようにする。 	
<p>4. 音読の工夫を全体で交流させ、工夫の視点を増やした面白さを実感させたりする。</p>	<p>15</p>	<p>○音読の工夫を全体で交流させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に特徴的な読み方の工夫ができている子どもに音読をしてもらい、その工夫や面白さを学級全体で実感できるようにする。 ・同じ言葉に着目した子どもにそれぞれの音読を発表させ、いろいろな工夫が考えられることに気づかせる。 ・発表を聞いて、自分にも取り入れたい工夫を書き込む時間をとる。 ・他の叙述との関連に気づいている子どもがいれば、そこにもふれさせながら、叙述に基づいて想像したことを、音声に表現していることにも気づかせたい。 	
<p>5. 本時のめあてと活動を振り返り、つけた力を実感する。</p>	<p>5</p>	<p>○本時のめあてにもとづいて「どのようなことができるようになったか」「どんな力を付けることができたか」という視点で振り返りを書かせ、発表させる。</p>	

①本時のねらい

6年生に自分の大好きな昔話の音読を楽しく聞いてもらうために、「天にのぼったおけやさん」での工夫をもとに、繰り返し読んだり試したりすることを通して、昔話の特徴的な語り口調や語のまとまりに着目し工夫して、音読することができる。

②本時の展開

学習活動	時	○指導 ・指導上の留意点	◇評価 ※備考
前時までに工夫して読みたい独特な口調や言い回しのある言葉に丸をつけている。			
1. 学習計画を振り返り、本時の活動の見通しをもつ。	5	○学習計画と前時までの活動を振り返り、本時のめあてと学習の流れを確認する。 ・「天にのぼったおけやさん」でした音読の工夫を振り返る。 ・自分の選んだ本で同じように音読の工夫を考えることを伝える。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ◎6年生に楽しく聴いてもらえるように工夫して読もう。 </div>	※共通教材 「天にのぼったおけやさん」での音読の工夫を書きこんだ拡大掲示
2. 自分の選んだ本の好きな場面の読み方を工夫しながら音読をする。	15	○昔話を楽しく聴いてもらえるような工夫を考え、その工夫した読みを声に出して試しながら音読をさせる。 ・その際、教師の音読例や「天にのぼったおけやさん」で見つけた工夫を拡大掲示で振り返りながら、自分が取り入れたい工夫の手がかりとすることができるように再度声かけをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <児童から出されるであろう読みの工夫> 強弱→「弱々しく小さな声で」 「さけぶような大きな声で」 「だんだん大きくしながら」 声色→「怒ったような声で」「怖がっているような声で」 速さ→「繰り返すところをゆっくり」「のぼして」 「急いで」 間の取り方→「ひと息飲んで」 言葉→「ドドーン ゴロゴロ」「どうじゃろう」 </div> ・工夫を考える際は、「天にのぼったおけやさん」での学習と同様、実際に声を出しながらいろいろな読み方が試せるようにし、語のまとまりに着目できるように指示をする。 ・「天にのぼったおけやさん」の学びを生かして、書き込みをさせたり、付箋に書かせ貼り付けたりすることも伝えが、書くことに気をとられないように、音読を繰り返したり、試したりしながらできるように声をかける。	※並行読書 「各自が選んだ本」 ◇【Cーア】 語のまとまりや昔話の特徴的な語り口調に着目し、読み方の工夫をして音読している。 (音読の様子・書き込み・振り返り)

<p>3. ペアになり、自分の工夫した読み方で、音読の工夫を交流する。</p>	<p>5</p>	<p>○自分の考えた音読の工夫を用いながら、ペアになって音読を 発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方的にペア活動をさせるのではなく、友だちに聞いてもらいたい、読んでみたいという思いを出させる中で、必然性をもって取り組めるようにする。 ・友だちの発表を聞きながら、工夫が感じられた点について伝え合い、さらに取り入れたい読み方の工夫をつかませる。その際、聴いて楽しかったところを全体の場で交流することを伝え、聞くときの視点をもたせる。 	
<p>4. 音読の工夫を全体で交流させ、工夫の視点を増やしたり面白さを実感させたりする。</p>	<p>10</p>	<p>○友だちの読み方を聞いて、聴いて楽しかったところを全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に特徴的な読みの工夫ができている子どもに読んでもらい、その工夫や面白さを学級全体で実感できるようにする。 	
<p>5. 本時のめあてと活動を振り返り、つけた力を実感する。</p>	<p>10</p>	<p>○本時のめあてにもとづいて「どのようなことができるようになったか」「どんな力をつけることができたか」という視点で振り返りを書かせ、発表させる。</p>	